

平成 18～21 年度用 中学校「美術」

題材内容資料

第 1 学年

目次

- p. 1・2 美術科評定規準例について
- p. 3～9 美術 1 「自由な心で」 題材内容資料

H18～21 年度用 中学校教授資料

| 発行者の 番号・略称 | 文部科学省検定済 教科書の記号・番号 | |
|---------------|-----------------------|--------|
| 116 日文 | 1年 | 美術 711 |

日本文教出版

美術科評定規準例について

◎美術科の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的能力を伸ばし、豊かな情操を養う。

◎評価の観点及びその趣旨

| | |
|------------------|--|
| 美術への 関心・意欲・態度 | 主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組み、その喜びを味わい、美術を愛好していこうとする。 |
| 発想や構想の 能力 | 感性や想像力を働かせて感じ取ったことや考えたことなどを基に、豊かに発想し、よさや美しさなどを考え、心豊かで創造的な表現の構想をする。 |
| 創造的な技能 | 表現の技能を身に付け、造形感覚や感性などを働かせ、自分の表現方法を創意工夫し創造的に表す。 |
| 鑑賞の能力 | 美術作品や文化遺産などに親しみ、感性や想像力を働かせてよさや美しさなどを感じ取り味わったり、理解したりする。 |

◎美術科における観点別評価の総括

・観点別評価の総括

題材の評価は、それぞれの観点ごとに「おおむね満足とする」評価をBとし、それを中心に特に優れているとされる評価をAとしました。また長期にわたる題材に関しては、学習の展開ごとに四つの観点で評価を行います。美術科の場合、生徒たちの学習に対するはぐくみの内容を大切に、後半での成果を重視します。

また、四つの観点には評価を行う上で、それぞれどのような視点やポイント、考え方で評価がされるべきかに特徴があります。「美術への関心・意欲・態度」であれば、全体の学習活動を通して評価しますが、題材を通し、個々の生徒の関心・意欲・態度がどのように変化したのかを見取り、その原因や変容を分析した上で題材の評価とすべきでしょう。また「発想や構想の能力」においては、アイデアがうまく表現に結びつかなくても、アイデアスケッチ、個別指導時の発言やつぶやきの中から個々の生徒の発想力や、どのように構想をまとめていったのかを探る必要があるでしょう。「創造的な技能」においてはでき上がった作品から評価を下すのみではなく、制作過程で、創造的な技能をど

ようにはぐくんでいったのかを観察し、総合的に判断する必要があります。その上で、結果として失敗してしまった作品の作者においてもその生徒の学びを見取ることができ、ます。「鑑賞の能力」においてはレポートや感想文のみに頼ることなく、授業を通して何を感じ、考えたのか、発言や個別指導の際のつぶやきも個々の変化や心の揺れとして記録することが望ましいでしょう。

・学期の総括例

以下各学期におけるABCの評価例を示しました。

あくまでも目安とし、評価する側が、どのような評価規準を題材ごとに設定するかという点が重要です。パーセンテージ等の数字はその規準により左右され、その上で妥当性を持つ点にも注意が必要です。(パーセンテージは習熟度の割合を示しています。)

A…………70%以上…………○………… 5点
B…………40～69%…………△………… 3点
C…………39%以下…………無印………… 1点

それぞれの題材で四つの観点ごとにこれまで評価してきた内容を、総合的に評価します。長期の題材によっては、重視したい観点の評価に係数をかけ、配点することもあります。

各学期の定期テストについては、中間テスト、学期末テスト等で実施し、知識理解度を中心に評価しますが、発想や構想の能力・創造的な技能・鑑賞の能力を確認する観点の問題も設定します。設定全体に占める定期テストの割合は30～40%としてあります。各学期における学習内容に合わせて設定することが大切です。

ABCの評価を出す点でも同じことが言えますが、どのような学習目標を設定し、どのような評価規準を題材ごとに設定するかという点が重要で、評定への換算点も左右されることに注意が必要です。今回の例では評定への換算は以下の点数で行ってみました。

5…91点以上
4…71～90点
3…41～70点
2…21～40点
1…20点以下

(例：2年生・1学期) 必要に応じて評価のポイントを加える

| 観 点 | 美術への 関心・意欲・態度 | | | | 発想や構想の 能力 | | | | 創造的な技能 | | | | 鑑賞の能力 | | | 合計点 100点 満点 | 評 定 | |
|--------|------------------|---|---|------|--------------|---|-----|------|--------|---|-------|------|-------|---|-----|-------------------|--------|---|
| | ① | ② | ③ | 作品から | ① | ② | テスト | 作品から | ① | ② | テスト×3 | 作品から | ① | ② | テスト | | | |
| 氏 名 | あ | ○ | △ | ○ | ○ | △ | △ | △ | ○ | ○ | ○ | △ | ○ | ○ | △ | ○ | 82 | 4 |
| | い | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | △ | ○ | 96 | 5 |
| | う | | | | | | △ | | | △ | | | | | △ | | 26 | 2 |
| | え | | △ | △ | △ | △ | ○ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | 60 | 3 |
| | お | | | | | | | | | | | | | | | | 20 | 1 |
| | か | △ | △ | △ | △ | △ | △ | ○ | △ | △ | △ | ○ | △ | △ | △ | △ | 70 | 3 |
| | ↓ | | | | | | | | | | | | | | | | | |

網掛けの部分は2倍の係数をかける。

ここでは題材の学習目標に照らし、「創造的な技能」のテストの結果から導き出す評価に3倍の係数をかけている。

◎評価をする姿勢を考える

・絶対評価を行う上で

絶対評価が全国で実施されて数年がたちます。絶対評価は学習指導要領に基づいて、生徒たちが習得すべきことに対して、どれだけ学習内容が身についているのかを見取することを大切にしています。それに対し相対評価は、それぞれの学校内における同学年の生徒集団の中で、どのような学習成績順位に各生徒がいるのかということ測るものでした。習熟度を評定に換算した場合でも学校間の学力格差や指導する教師によつての差は現れませんでした。

それぞれの評価方法にそれぞれのよさがあり、また、評価結果に現れにくい面を持つことも否めません。絶対評価の場合、その評定への換算についてはいくつもの方法が考えられています。しかし、学習を組み立てる上で設定した評価規準の内容について振り返りを行う大切さや、学習すべきことと各題材の妥当性、題材における学習目標についての議論は、まだまだなされなければならない現実があります。点数換算をし、生徒た

ちが何点を取ればどの評定になるという問題だけでは解決は難しいでしょう。この議論があつてはじめて絶対評価はそのよさを発揮できます。

学校現場においては評定が直接、高校入試への合否判定資料となる現実を踏まえ、全中学校、各教科の評定分布をパーセンテージで公表している自治体もあります。それだけ評価を見直し、生徒たちの資質や能力をはぐくむための確かな見取りを行おうとする現れだと信じたいものです。

・評価の工夫

絶対評価を行う上で、指導者が大切にしなければならないことに、評価の妥当性という問題があります。指導する立場が、設定した評価規準の妥当性に対し説得力を持つためには、客観的な見地でそれぞれの題材で設定した評価規準を見直す必要があるでしょう。そして評定への総括において、自分の行った総括の仕方が妥当性を持つのか、研修会等で複数の視点から話し合い、深めてみることも大切だと思われまふ。

例えば、一人の生徒が転校した場合、違った指導者のもとで同じ力を同じ立場で発揮したとすれば、およそ同じような評価が下されるべきでしょう。指導者の個人的な価値意識で評価が行われてはなりません。

また、同じ学習目標に対して、個々の生徒が同じ時点で同じ反応を示すとは限りません。それは同じ数字の評定がされている他の生徒についても同じことが言えるでしょう。設定した評価規準をどのような場面でどのように評価するのか、個々の生徒の特性を見抜く必要もあるのではないのでしょうか。公平な立場で評価を行うために、個々の生徒の観察を怠らず、評価するポイントや評価の回数を可能な限り増やし、指導者の評価に対する客観性を高める必要があると思われまふ。

◎評価規準例、「A」と評価するキーワードの例について

次ページ以降の題材内容資料については、国立教育政策研究所の参考資料に基づき、「おおむね満足できる」状況(B)を「題材の評価規準例」とし、その中で特に「十分満足できる」状況(A)と判断される、生徒の具体的な状況の例やキーワード、ポイントの例を『A』と評価するキーワードの例』として示しています。

美術1「自由な心で」 題材内容資料

| 領域 | ページ・ 題材名 | 時間 | 学習目標 | 材料 用具 | 評価の観点 | 題材の評価規準例 | 「A」と評価する キーワードの例 |
|-------------------|----------------------|-------------|--|---|--------------|---|---|
| 鑑賞 | 表紙・裏表紙 自由な心で | (適宜) | <ul style="list-style-type: none"> 優しいまなざしで子どもをとらえた作品を通して、表現することの楽しさや、素晴らしさを感じ取る。 作者の思いや意図によって、様々な表現方法があることを知り、自分らしい表現について考える。 | 同作品の資料や関連する作品の資料など | 美術への関心・意欲・態度 | 作品に関心を持ち、鑑賞する楽しさを感じながら、作品を理解し自分なりに味わおうとすることができる。 | 熱心に 見方を広げ 他者の見方を理解しようとする |
| | | | | | 発想や構想の能力 | | |
| | | | | | 創造的な技能 | | |
| | | | | | 鑑賞の能力 | 作品の表現技法について知り、作者が作品に込めた思いについて感じることができる。 | 深く感じ理解 他者の感じ方から自分の鑑賞を振り返り |
| 鑑賞 (オリエンテーション) | 2・3 澄んだ目と 心で | 1 、 2 | <ul style="list-style-type: none"> 美術の活動の基本である発見や感動の大切さを再確認し、美術への興味・関心・意欲を高める。 ホームーの作品の鑑賞を通して、作者の個性をつかみ、主題がどのように感じられるかを味わうとともに、表現されている内容を素直に味わう。 | 関連するホームーの作品の資料など | 美術への関心・意欲・態度 | 「見て感じ取る」という美術の活動の基本を再確認した後、美術に対する興味・関心・意欲を新たに高めることができる。 | いろいろな見方があることを理解しようと 今の自分を素直に見つめられる |
| | | | | | 発想や構想の能力 | | |
| | | | | | 創造的な技能 | | |
| | | | | | 鑑賞の能力 | 作者の個性を直感的に把握し、表現内容を素直に味わうことができる。 | 分析的に見られる 自分の見方を深めて 他者の感じ方から自分の鑑賞を振り返り |
| 表現 (創造へのとびら) | 4・5・6 つくり出す 喜び | 2 、 4 | <ul style="list-style-type: none"> 身近な自然の中にあるいろいろな事物に触れたり、普段見慣れている風景を改めて見つめ直したりすることによって、新鮮な感動や発見を得る。 創造へのきっかけをつかみ、その感動を平易な方法で作品化する。 | 木の枝 葉 土 接着剤 ひも カメラ 画用紙 トレーシング グペーパー 色鉛筆 パステル 水彩絵の具 など | 美術への関心・意欲・態度 | 発見や感動を求めて生き生きと活動することができる。 | 意欲的に 積極的に 主体的に |
| | | | | | 発想や構想の能力 | 何に感動し、何を発見したか、その喜びを表現へと展開することができる。 | 視点の新鮮さ 意外性のある視点で 独自性 |
| | | | | | 創造的な技能 | 発見や感動の喜びの強度を的確に伝えられるような、表現の工夫を行うことができる。 | 独創的に 効果的な工夫 |
| | | | | | 鑑賞の能力 | お互いの発見や感動の喜びを尊重し共有することができる。 | 相互理解と共感を意識し 他者の感じ方から自分の鑑賞を振り返り |

| 領域 | ページ・ 題材名 | 時間 | 学習目標 | 材料 用具 | 評価の観点 | 題材の評価規準例 | 「A」と評価する キーワードの例 |
|--------------------|-----------------------|-------------------------------|--|---|--------------|--|--|
| 表現・鑑賞 (創造へのとびら) | 7・8・9 色との出会い | 2 〜 4 | ・自然や生活に息づく色、造形作品に生かされる色彩のよさや美しさに気づき、その性質や感情への影響について理解し、効果を工夫して用いる。 | 色紙・セロハンなどの材料 色鉛筆・水彩絵の具・ポスターカラーなどの描画材 コンピュータなど | 美術への関心・意欲・態度 | 身の回りの色や造形作品の色に興味を持ち、色の性質や感情を理解しようとするができる。 | 意欲的に 多角的に 深く |
| | | | | | 発想や構想の能力 | 色に興味を持ち、色の性質や感情、色の組み合わせなどから学習テーマや表現テーマを発想することができる。 | 心豊かに 的確に |
| | | | | | 創造的な技能 | 色の三属性や、色から感じ取ることのできる感情や性質などを体験的に理解し、用いることができる。 | 表現意図を明確にして 目的に合わせて |
| | | | | | 鑑賞の能力 | 生活に息づく色彩や、伝統や文化を彩る色彩の魅力を味わい、そのよさや美しさ、用い方の工夫などに気づくことができる。 | 様々な視点から 的確に より深く |
| 表現 絵・彫刻 | 10・11 スケッチの 楽しみ | 2 〜 4 (毎時間実施する場合もある) | ・しっかりと対象を観察することを通して、よさや美しさを発見しようとする気持ちを大切にする。 ・ものの見方や感じ方を深め、対象の形や色彩の特徴をとらえて自分らしく表現するなどしてスケッチに親しむ。 | 画用紙 鉛筆 色鉛筆 パステル コンテ 墨 各種ペン 水彩絵の具 など | 美術への関心・意欲・態度 | 自然や身近なものを深く観察し、よさや美しさなどを感じ取ったりして、スケッチに親しんでいこうとすることができる。 | 意欲的に 喜びを理解し より深く |
| | | | | | 発想や構想の能力 | ものの見方・感じ方を深め、表現方法を工夫して発想を豊かにすることができる。 | 自分らしく独自の 心豊かな感じ方や表現への展開 新鮮な感じ方で |
| | | | | | 創造的な技能 | 形や色彩の特徴や美しさなどをとらえ、自分なりの方法でスケッチすることができる。 | 多様な表現を工夫し 自分の意図に合った 新たな表現の工夫 意図に合った創意工夫 |
| | | | | | 鑑賞の能力 | スケッチに見られるよさや美しさ、表現の工夫やその価値について見方を広げようとするができる。 | 感じたことをまとめる 対象のとらえ方や表現の工夫 に気づく |
| 表現 絵・彫刻 | 12・13 見て、感じて | 4 〜 6 | ・対象を観察することを通して得た感動や思い等を、対象の描写を大切に絵などで表現する。 ・主観的な思いを大切に、それに合った形のデフォルメや色彩の使用に幅と柔軟性を持たせる。 | 画用紙 鉛筆 色鉛筆 パステル 水彩絵の具 など | 美術への関心・意欲・態度 | 心ひかれる対象を選び、素直な思いを抱くことができる。感じた思いを表現しようとすることができる。 | 意欲的に 感動を大切に 表現の工夫 |
| | | | | | 発想や構想の能力 | 使用する描画材等を適切に選び、自分の思いに合った表現を発想し構想を練ることができる。 | 思いと表現との豊かな直結性 思いに率直に |
| | | | | | 創造的な技能 | 表現を工夫し、形や色に自らの思いを反映させることができる。 | よく考え主題を追求した表現 独自性と新鮮さのある表現 |
| | | | | | 鑑賞の能力 | 対象をよく見て感じ取ったことを、適切に明確に他者に伝えることができる。また他者の思いや表現を味わうことができる。 | 豊かに感じて 感動を豊かに 他者の表現への温かな共鳴と吸収 |

| 領域 | ページ・ 題材名 | 時間 | 学習目標 | 材料 用具 | 評価の観点 | 題材の評価規準例 | 「A」と評価する キーワードの例 |
|------------|------------------------|-------------|--|--|--------------|--|---|
| 表現 絵・彫刻 | 14・15 心に残る情景 | 4 ～ 6 | <ul style="list-style-type: none"> 生活の中で印象に残っている場面を思い出し、その時の雰囲気や季節感などを、見る人に伝わるように豊かに発想する。 生命感や情感などを大切にして生き生きとした表現の構想を練り、意図に応じて表現方法を工夫して表す。 | 画用紙 鉛筆 水彩絵の具 アクリル絵の具 板 加工粘土 など | 美術への関心・意欲・態度 | 日々の生活の中で出会った自然やできごとのよさや美しさに関心を持ち、表現方法などを創意工夫し、活動に取り組むことができる。 | 意欲的に 課題意識を持って 積極的に |
| | | | | | 発想や構想の能力 | 自然の美しさや感動した記憶をもとに、絵や彫刻で創造的な構成を工夫し、生き生きとした表現の構想を練ることができる。 | 心豊かに 独創的な 多様な表現で |
| | | | | | 創造的な技能 | 表したい場面の特徴や美しさなどをとらえ、自分なりの表現を大切に材料や用具を生かして表現することができる。 | 効果的に 主題を大切に した表現を工夫し 独創的に |
| | | | | | 鑑賞の能力 | いろいろな見方や感じ方、発想の仕方、知識を学び、多様な表現のよさや美しさなどを感じ取り味わうことができる。 | 多様な視点から 造形について見方を 広げ 表現意図と工夫を 理解し |
| 表現 絵・彫刻 | 16・17 想像の世界へ | 3 ～ 6 | <ul style="list-style-type: none"> 詩や物語などから想像したことをもとに主題を発想し、創造的な構成を工夫して心豊かに表現する構想を練る。 自分の表したい感じを大切にして、多様な表現方法を工夫し絵や彫刻などに表現する。 | 画用紙 鉛筆 水彩絵の具 板 加工粘土 針金 ひも 塗料 など | 美術への関心・意欲・態度 | 夢や目標を持って楽しく絵や彫刻などの活動に取り組み、創意工夫することができる。 | 意欲的に 課題意識を持って 多様な表現で |
| | | | | | 発想や構想の能力 | 詩や物語などから想像力を働かせて豊かに主題を発想し、形や色で美しく表現することができる。 | 造形感覚を働かせて 創造的な構成を工夫して 生き生きと表す |
| | | | | | 創造的な技能 | 表現意図に応じた材料や用具の生かし方などの基礎的技術を身につけて、表現することができる。 | 効果的に 多様な表現方法を 創意工夫して |
| | | | | | 鑑賞の能力 | 多様な表現のよさや美しさなどを感じ取り味わうことができる。 | 作者の心情や意図を感じ取り よさや美しさを深く 理解し 多様な見方で |
| 表現 絵・彫刻 | 18・19 版のよさを 生かして | 4 ～ 6 | <ul style="list-style-type: none"> 自然や身近なものを深く観察し、よさや美しさなどを感じ取ったり、発見したりして、版の特色や効果などを考え、意図に応じた表現方法を工夫して表す。 | 画用紙 カーボン紙 版画用紙 地塗剂 葉 接着剂 布 版木 版画インク 金属板 版画プレス機 など | 美術への関心・意欲・態度 | 版による多様な表現のよさや美しさを感じ取り、創意工夫して新しいことを発想し、楽しむことができる。 | 意欲的に 課題意識を持って よりよい表現を 目指し |
| | | | | | 発想や構想の能力 | 自然や身近なものを新鮮な見方や感覚で観察し、感性や造形感覚などを働かせて構想を練ることができる。 | 心豊かな 創造的な構成を工夫して 生き生きとした |
| | | | | | 創造的な技能 | 意図に応じた材料や用具の生かし方などの基礎的技術を身につけ、主題を大切に表現することができる。 | 効果的に 独創的な表現方法を工夫して |
| | | | | | 鑑賞の能力 | 版による表現の特色や、作品の見方や多様な表現方法について理解し、そのよさや美しさを味わうことができる。 | 意図と表現の工夫を 理解し 技法の相違点に 気づき 深く |

| 領域 | ページ・ 題材名 | 時間 | 学習目標 | 材料 用具 | 評価の観点 | 題材の評価規準例 | 「A」と評価する キーワードの例 |
|---------------|--|-------------|---|---|--------------|---|-------------------------------------|
| 表現 絵・彫刻 | 20・21 立体に表す 楽しみ | 4 ～ 6 | ・身近な自然物や人工物から立体としての面白さや美しさを感じ取り、感じたものを作品として表すことを通して、立体作品をつくる楽しさを理解する。 | 軟石 加工粘土 粘土べら 木 彫刻刀 など | 美術への関心・意欲・態度 | 立体に表す楽しさを味わいながら、制作することができる。 | 意欲的に 集中して 自らの主題を持って |
| | | | | | 発想や構想の能力 | 材料の持つ特性に親しみながら、大切にしたい形を構想することができる。 | 材料の特性を生かし 主題を深め 豊かな構想を練る |
| | | | | | 創造的な技能 | 材料の持つ特性に親しみながら、立体表現としてのよさや美しさを表すことができる。 | 材料の特性を効果的に生かし 塊としての表現の方法を工夫して |
| | | | | | 鑑賞の能力 | 立体作品の多様な表現のよさや美しさを感じ取り味わうことができる。 | 多様な立体表現の美について 理解して 意図や工夫を感じ取り |
| 表現 デザイン・工芸 | 22・23 自然の形や 色を生かして | 4 ～ 6 | ・身近な自然材の特徴や美しさを感じ取りながら、その形や色、質感などを生かした造形活動を楽しんだり、美しい構成を発見したりする。 | 木 竹 石 草 木の葉 画用紙 コンピュータ など | 美術への関心・意欲・態度 | 身近な自然材に触れ、感性や美的感覚を働かせてそのよさや美しさを感じ取りながら造形活動に親しむことができる。 | 意欲的に 自分の視点で |
| | | | | | 発想や構想の能力 | 材料の持つ性質や特質を考え、美的感覚を働かせて作品を発想することができる。 | 心豊かな 独創的な |
| | | | | | 創造的な技能 | 材料から発見した造形要素を生かして、自分なりの方法でつくったり構成したりすることができる。 | 表現意図を明確にして 表現方法や技法にこだわりを持って |
| | | | | | 鑑賞の能力 | 身近な自然材のよさや美しさを感じ取ったり、それらを用いた表現のよさを味わおうとしたりすることができる。 | よさや美しさを見だし 見方を広げ |
| 表現 デザイン・工芸 | 24・25 土と炎の 出会い (題材例：ランプシェードをつくろう) | 4 ～ 6 | ・陶土の感触を楽しみながら焼き物の持つ造形的なよさを味わい、成形から焼成までの制作工程を理解し制作する。 ・生活を豊かに演出できるように、使えるもの・飾るものとしてのランプシェードを、光の効果を考えながらデザインしてつくる。 | 陶土 粘土板 粘土べら ストロー 水入れ 瓶 照明器具 など | 美術への関心・意欲・態度 | 身近にある焼き物のよさについて関心を持つとともに、計画にそって制作に取り組もうとすることができる。 | 最後まで意欲的に 課題意識を持って 深めて |
| | | | | | 発想や構想の能力 | 焼き物の持つ造形的なよさや美しさ、照明器具としての機能などを考え、光の効果を生かしたデザインをすることができる。 | 独創的な 新鮮な感覚で 豊かな演出を考え |
| | | | | | 創造的な技能 | 焼き物の制作工程（成形、加飾、乾燥、素焼き、施釉、本焼き）や成形方法（板づくり）を理解し、自分のイメージに合う作品を制作することができる。 | 加飾の工夫 豊かなイメージを広げて |
| | | | | | 鑑賞の能力 | 自分や友だちの作品から工芸品としての美しさや、発想や表現のよさを感じ取ることができる。 | 装飾性や機能性などの工夫に 気づく 多様な価値観を味わい |

| 領域 | ページ・ 題材名 | 時間 | 学習目標 | 材料 用具 | 評価の観点 | 題材の評価規準例 | 「A」と評価する キーワードの例 |
|-------------------|--|-------------|--|---|--------------|--|---------------------------------------|
| 表現 デザイン・ 工芸 | 26・27 遊び心の かたち | 4 ～ 8 | ・ユーモアに富んだ遊び心を生かし、心を和ませるユニークな飾りや楽しく遊べるものを、アイデアや材料の特性を生かしてつくる。 | 木 針金 紙 皮革 廃材 加工粘土 など | 美術への関心・意欲・態度 | ユーモアに富んだ遊び心について理解し、表現に生かそうとしながら制作を楽しむことができる。 | 美しさや機能を考えて相手の気持ちを大切に意欲的に |
| | | | | | 発想や構想の能力 | 遊び心を生かし、飾ったり遊んだりする機能を理解しながら発想・構想することができる。 | 独自の楽しさを演出し効果的な機能を考え |
| | | | | | 創造的な技能 | 制作するものに適した加工技術を学び、材料の特性を生かしながら自分の意図に合った方法で制作することができる。 | 明確な意図 創意工夫 |
| | | | | | 鑑賞の能力 | 心を和ませる工夫について考えながら、作品の楽しさやよさを味わうことができる。 | 楽しさの演出や主題の豊かさに気づき 他の作品のよさを共有し合おうとし |
| 表現 デザイン・ 工芸 | 28・29 動く絵の 楽しさ (題材例:アニメーションの世界) | 3 ～ 6 | ・アニメーションの原理を知り、絵や立体の形・色の変化や動きの面白さを生かした表現をする。 | コンピュータ デジタルカメラ 水彩絵の具 加工粘土 など | 美術への関心・意欲・態度 | アニメーションに関心を持ち、楽しく生き生きと表現することができる。 | 意欲的に 自らの目標を持ち |
| | | | | | 発想や構想の能力 | アニメーションの原理を理解し、場面の变化や一定の時間の中での形や色の変化の面白さを発想し、構想することができる。 | 全体の構成を工夫し 温かな気持ちで 見る人の立場を大切に |
| | | | | | 創造的な技能 | 自分のイメージに合った材料やメディアを選び、全体の流れや動きの変化を考えた作品をつくり上げることができる。 | 見る人が感じる意外性 豊かな表現 |
| | | | | | 鑑賞の能力 | アニメーション制作の工夫などについて、他の人の表現の特徴などを感じ取りながら鑑賞できる。 | 工夫に気づき 温かな視点で 発展的に |
| 表現 デザイン・ 工芸 | 30・31 文字を生かした デザイン | 3 ～ 4 | ・伝えたい内容や使う場面、場所などを考え、目的に応じて形や色を工夫し、楽しい文字、美しい文字をデザインする。 | 色紙やセロハンなどの材料 色鉛筆・水彩絵の具・ポスターカラーなどの描画材 コンピュータ など | 美術への関心・意欲・態度 | 家庭や学校での日常生活を演出したり、建築や都市空間に生かされる文字のデザインの効果や美しさに関心を持つことができる。 | 深く 自分の視点を明確にして |
| | | | | | 発想や構想の能力 | 文字の特徴を生かして、楽しく効果的なデザインを発想することができる。 | 独創的に 心豊かに |
| | | | | | 創造的な技能 | 形や色を工夫し、内容を伝えたり、印象づけたりするための文字をデザインすることができる。 | 主題を効果的に伝え 表現意図を明確にして |
| | | | | | 鑑賞の能力 | デザインされた文字のよさや美しさを味わい、目的との適合性や、伝えるための工夫などについて考えようとするすることができる。 | 様々な視点から 深く追求し |

| 領域 | ページ・ 題材名 | 時間 | 学習目標 | 材料 用具 | 評価の観点 | 題材の評価規準例 | 「A」と評価する キーワードの例 |
|----|------------------------|-------------|--|--|--------------|---|-----------------------------------|
| 鑑賞 | 32・33 絵本は小さな 美術館 | 1 ＼ 2 | <ul style="list-style-type: none"> 身近な絵本を造形的な視点から見つめ直し、絵本に備わっている特性やイラストレーションの豊かな表現を発見する。 絵本のイラストレーションから絵本独自の表現を味わうとともに、それらの造形的工夫やその効果について考える。 | 教科書に取り上げた絵本の実物や教師が推薦する絵本など | 美術への関心・意欲・態度 | 絵本の持つ造形的魅力や形式的特性に気づくことを通して、絵本とそのイラストレーションに親しもうとすることができる。 | 強い興味を持って 意欲的に |
| | | | | | 発想や構想の能力 | | |
| | | | | | 創造的な技能 | | |
| | | | | | 鑑賞の能力 | 絵本に備わっている形式的特性のいくつかを発見したり、絵本のイラストレーションから造形的工夫や効果を見抜いたりするとともに、絵本の豊かな表現を味わうことができる。 | よく理解し 深く味わう |
| 鑑賞 | 34・35 生活と デザイン | 1 ＼ 2 | <ul style="list-style-type: none"> 生活用品など、身近なもののデザインについて親しみ、そのよさや美しさを味わうとともに、生活の中から生まれる願いや期待、デザインの意図や工夫などを感じ取る。 人々が楽しく心豊かに生活することのできるデザインとはどのようなものか考え、美と機能性との関わりについて気づき、その働きについて理解する。 | 参考資料 身近な文房 具 など | 美術への関心・意欲・態度 | 生活用品など、身近なもののデザインについて親しみ、そのよさや美しさなどを味わおうとすることができる。 | 意欲的に 見方を広げて 他の意見を大切に |
| | | | | | 発想や構想の能力 | | |
| | | | | | 創造的な技能 | | |
| | | | | | 鑑賞の能力 | 生活の中から生まれる願いや期待、デザインの意図や工夫などを感じ取ることができる。機能性や安全性、環境保全への配慮など、デザインに課せられた新たな課題について理解することができる。人々が楽しく心豊かに生活することのできるデザインとはどのようなものか考えることができる。 | 理解を深める 美と機能性との関わりに気づく 深く追求し |
| 鑑賞 | 36・37 見ることと 描くこと | 1 ＼ 2 | <ul style="list-style-type: none"> 作者が対象をどのように観察し、表現したかを確かめながら鑑賞する。 対象に向かう作者の姿勢や表現上の特色などを感じ取りながら、それぞれの作品の魅力を楽しむ。 | 参考資料 図版 画集 ビデオ DVD スライド プレイヤー プロジェクタ ワークシート など | 美術への関心・意欲・態度 | 観察をもとにした絵画表現の多様性に気づき、それぞれの特色に関心を抱くことができる。 | 積極的に 深める |
| | | | | | 発想や構想の能力 | | |
| | | | | | 創造的な技能 | | |
| | | | | | 鑑賞の能力 | 対象に向かう作者の姿勢や表現上の特色などを感じ取りながら、それぞれの作品の魅力を楽しむことができる。 | 新たな視点を大切に 見方を広げ より深く |

| 領域 | ページ・ 題材名 | 時間 | 学習目標 | 材料 用具 | 評価の観点 | 題材の評価規準例 | 「A」と評価する キーワードの例 |
|----|----------------------|-------------|--|--------------------------|--------------|--|---------------------|
| 鑑賞 | 38・39 のこされた 造形 | 1 ～ 2 | ・人類が遺した造形物を鑑賞し、そこに込められた思いや願いを想像しながら、人間の社会と造形の関わりについて話し合い、その意味を探りながら美術の始まりを考える。 | 参考資料 図版 スライド など | 美術への関心・意欲・態度 | 過去の造形物に関心を持ち，制作した人々の思いや願いを想像しようとする事ができる。 | 探求心を持ち 主体的に調べ |
| | | | | | 発想や構想の能力 | | |
| | | | | | 創造的な技能 | | |
| | | | | | 鑑賞の能力 | 過去の人々の思いや願いを想像することができ，人間と造形の関わりについて意味を考えることができる。 | 自由で豊かに 独自に考察し |